

国語科指導案

日時 平成21年11月25日(水)

第5校時(13:15~14:00)

場所 留萌市立東光小学校1年松組教室

児童 1年松組 23名

指導者 教諭 滝本都子

- 1 単元名 「みんなに つたえよう」 (話すこと・聞くこと教材「みぶりであそぼう」)
(読むこと教材「みぶりでつたえる」)
(話すこと・聞くこと教材「みぶりをつかってはなそう」)

2 単元について

1年生にとって、学習活動そのものが楽しく興味のわくものである。そして、繰り返しその活動を楽しむことによって、満足感・成就感を得ることができるという特徴がある。また、学習活動中の会話も語彙の獲得とともに活発なものとなり、一生懸命自分の思いを伝えようとする。しかし、その思いが強いほど、感情が先走り、上手く伝えられないのもこの時期である。

このような1年生の発達段階をふまえたとき、児童の日常生活に密着した身ぶりを使ったゲームを取り上げ、実際に体験することによって、身ぶりというものを意識させることは、児童の興味・関心を沸き立たせるものである。ゲーム体験の後、身ぶりのはたらきについて、説明文を通して学ぶことにより、ただ単に「楽しい。」という身ぶりのゲームから、さまざまな役割と意味をもつ身ぶりについて考えることになる。今まで無意識に使っていた身ぶりや、人に伝えたいことをよりはっきりと伝えることができる身ぶりに効果について、考えを深めていく。さらに、説明文を読んで理解するにとどまらず、実際に自分たちで身ぶりを使ったクイズを作る体験をすることで、理解したことを活用し、伝え合う力をのばすことができると考える。

さまざまな身ぶりを学んだ遊びによる導入は、単元全体の導入として位置付けられている。身ぶりに対する興味をここで十分に高め、説明文の学習に移りたい。例や挿絵を活用しながら、内容理解を図り、学んだことを生かす活動として最後にクイズ大会を行う。今までの学習で取り上げられなかったり、生活科の学習で触れてきたりした生き物を題材とすることで、児童の生活体験とつなげていけるよう配慮したい。

この活動では、さまざまな身ぶりを工夫し、相手に分かりやすく伝えるという意味で、学んだことの日常化を目指している。

3 児童の実態

一番好きな教科に「国語」を挙げる児童が多く、「新しい漢字を覚えるのが楽しい。」「読むのが楽しい。」「練習して、字がきれいになるのがうれしい。」というように、新しい学習との出会いを喜び、その活動に一生懸命取り組もうとする。また、継続した学習に対しては、「今日は〇〇やる

んだよね。」という声が拳がり、学習に見通しをもつ様子も見られる。

まだ言葉のかたまりを感じて読むことが難しい児童、発言に積極的でない児童、漢字の定着に時間がかかる児童、話を聞いて理解する前に自分の思いで活動してしまう児童など、さまざまな児童がいるが、隣同士、グループ、学級全体の助け合いの中、学習を進める学級の雰囲気がある。できるようにになりたいという気持ちを強くもっており、それが学習へ向かう意欲になっている。

4 研究の視点

(1) 学習過程の工夫について

単元構成が、身近な身ぶりゲームから始めて児童の学習意欲を高め、その後、説明文へつなげて理解を深め、学んだことを基に自分たちでクイズを考え、身ぶりの働きについて体験するという形になっている。

そこで、導入で十分に学習意欲を高めることが重要であると考え。ただの身ぶりを使った遊びで終わることなく、「身ぶりっておもしろい。」、「身ぶりで伝えることができるんだ。」という体験が、次の学習へとつながっていくよう配慮したい。

そして、「身ぶり」についての説明文を学習するにあたっては、説明的文章を音読できること、挿絵と文章の内容を結びつけながら読み取ることができること、具体例に基づき、自分たちの使ってきた身ぶりについて話すことができることの3点の定着を目指す。音読練習は繰り返し行うことが必要である。しかし、同じことを何度も繰り返していると集中力が散漫になるので、家庭学習での音読練習をはじめ、学習の中では、一人読み、列読みなど変化を常に入れながら練習できるようにしていく。説明文では、身ぶりの挿絵がいくつも紹介されているが、動作を絵で表していることから、動きの一部を表しているに過ぎない。そこで、挿絵の動作化を通して、挿絵と文章の内容の一致を図っていくようにする。

本時では、説明文の型が段落ごと、似たような型になっていることを利用し、前時までに学習してきた内容を基に、子どもたちが見通しをもち活動に取り組む中で上記の3点を身に付くことができるようにしていく。

最後の身ぶりを使ったクイズづくりでは、学習してきたこととつなげることができるよう常に働きかけていきたい。学習の継続性を押さえることで、子どもたちに学習事項が確実に定着していくと考える。

(2) 言語活動の充実について

国語科の言語活動は、様々な活動が列挙される分、一つ一つの活動に合わせ、言語活動を選択し、それらを意図的に取り入れ、身に付けることができるよう配慮していく必要がある。

本単元の話すこと・聞くことの教材では、話す機会の保障のためグループでの活動を多く取り入れていく。必ず言葉にして、相手に伝えるということを大切にしたい。ゲーム性のある内容となっているので、自発的に話す機会が多くなり、普段から積極的に話す児童が目立つことが予想される。小グループにしても、ルールに則った中でしか発言しない児童もいるので、そのような児童に対し、強く働きかけていきたい。そうすることで、一人一人が言葉を発する機会を増やすことができると考える。

読むことの教材でも、意図的な音声化を意識していく。授業の中では、全員が声に出さなくても学習が進んでいくことがあるが、意図的に「全体で声に出し確認する」ことを継続しているところである。言葉にすることで学んだことが定着できるようにしている。

本時では、音読をしっかりと行ったあと、文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えを話せるような場を設け、話すことで身ぶりのはたらきについての理解につなげていきたい。また、身ぶりについての特徴をノートに書き、読み取りを確実にしていく。読む、話す、書くがバランスよく1時間の中に組み込まれるよう配慮する。

(3) 学習意欲を高める工夫について

教室環境を整えるにあたり、掲示物の活用を図る。本単元は「身ぶり」について学ぶという内容から、掲示物にも言葉だけでなく挿絵を加えることで、児童に分かりやすくなるよう工夫する。また、説明文の段落ごとに型が似ているという特徴を生かし、その掲示物のまとめ方を見て、本時の学習や次の学習の見通しをもてるようにすることで、自ら学ぶ意欲につなげていきたい。さらに、ノートに書くときにもその継続性を利用し、自分で次に何を書くとよいか見通しをもてるようにしたい。

話す場面を設けるにあたり、座席の配置を工夫することで積極的に発言できる児童の活用を図りたい。友だちの意見を聞くことで学習内容が理解できたり、理解が深まったりするが、発言の多い児童の座席が近い場所にかたまると、学級全体として発言する、または聞くという空気が生まれにくい。いろいろな場所から意見が出ることで、その雰囲気に合わせて、発言が少ない児童も自分も話そうという気持ちになったり、うなずきが生まれたりすると考える。学習へ向かう雰囲気づくりも大切な環境である。

そして、その時間だけにとどまらず、次の活動も見通した環境構成を工夫したい。本時は、説明文の内容を学習する場面であるが、その学習を生かし、次は生き物クイズを作る活動がある。この学習に入る前の段階から、教室には生き物に関する図書を置き、手に取ることができる環境を整えておく。学習に向かう外的刺激を意図的に取り入れることが、学習意欲の向上につながっていくと考える。

5 目 標

身ぶりについて読んだり、身ぶりを使って話したりして、よりよい伝え方を考えることができる。

【関心・意欲・態度】

身ぶりについて理解し、身ぶりを使って楽しく表現しようとする。

【話すこと・聞くこと】

知らせたいことを選び、身ぶりを使って分かるように話す。また、相手の話を興味をもって聞き、内容を理解することができる。

【読むこと】

事柄の順序に気を付けながら、身ぶりの特徴について読み取ることができる。

6 指導計画

	<p>主の学習活動と児童の様子◎・支援☆</p>	<p>【評価基準】と視点</p>
<p>つ か む 3</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>身ぶりを使ったゲームをしよう！</p> </div> <p>◎身ぶりをつかった遊びがあることを知る。 ◎ジェスチャーゲームやその他の身ぶりを使ったゲームをする。 ◎身ぶりについて知っていることや、身ぶりを使った遊びの経験について話す。 ☆グループ活動にすることで、発言の機会を保障し、多くの児童が楽しく活動に参加できるようにする。</p>  <p style="text-align: center; font-size: small;">ジェスチャーゲーム</p>	<p>【関・意・態】 身ぶりをつかったゲームに楽しく参加し、活動している。（行動観察・発言）</p> <p>【話す・聞く】 話を最後まで聞いたり、分からないことは質問したりすることができる。（発言・態度）</p> <div style="background-color: #FFD700; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>視点 1 これからの学習に対する意欲化</p> </div> <div style="background-color: #FFD700; padding: 5px;"> <p>視点 2 言語化による「身ぶり」の意識化</p> </div>
<p>追 求 す る 11</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>身ぶりについて考えよう！</p> </div> <p>◎全文を読み、身ぶりについて思ったことや考えたことを発表する。 ◎すらすらと読めるように音読を練習する。 ◎5つの形式段落に分ける。 ☆一字下がりのところが分けるヒントになることを伝える。</p>	<p>【関・意・態】 身ぶりについて、自分なりに思ったことや考えたことを話したり、書いたりしている。（発言・ノート）</p> <div style="background-color: #FFD700; padding: 5px;"> <p>視点 3 座席の配置の工夫</p> </div>

身ぶりには どんな特徴があるか考えよう！

◎形式段落ごとの音読練習。

～形式段落1～

◎手を振る身ぶりについて考える



この絵は公園だね。

男の子と女の子が手を振っているよ。

友だちを呼んでいるのかな？

◎挿絵にある身ぶりを動作化する。

☆複数児童に動作化をさせることで、学習への参加意欲を高める。

◎「このように」という言葉に着目して読む。

言葉だけでなく、身ぶりでも、気持ちや考えを相手に伝えることができる。

～形式段落2・3・4～

◎挿絵にある身ぶりを動作化

しながら、身ぶりの特徴について考える。



この身ぶりは、「しずかにしよう」というときだね！

特徴 1
身ぶりは言葉の代わりをする。

「ありがとう」といいながら、あたまを下げていますよ。



【関・意・態】

挿絵と身ぶりについて進んで発表しようとする。(行動観察・発言)

視点 1
挿絵と文章を合致させた内容理解

【読む】

文章の内容を読み取ることができる。(発言)

視点 1
動作化による内容理解

視点 2
まとめを全員で読むことでの確実な定着

【読む】

それぞれの身ぶりの特徴を読み取ることができる。(発言・行動)

視点 1
動作化による内容理解

視点 3
継続した掲示物の活用

特徴 2

身ぶりと言葉を一緒に使うと、自分の伝えたいことが、相手にはっきりと伝わる。

本 時

この女の子は、困っているのかな？男の子も困っているのかな？教科書を読みましょう。



特徴 3

うれしい、たのしい、かなしい、こまったなどの気持ちは、身ぶりで表す方がよく伝わることもある。

☆挿絵と教科書の言葉が一致できるよう、動作化に合わせて教科書を読むように促す。

～形式段落5～

◎ 筆者の考えを読み取る。

身ぶりを上手に使うと、伝えたい気持ちや考えをはっきりと表せるようになる。

毎日の生活の中にある身ぶりを探してみよう！

◎生活の中で、どんな身ぶりがあるかを見付ける。

☆一日の生活の流れを思い出しながら考えることができるよう声をかける。

◎見付けた身ぶりを学習した身ぶりの特徴ごとに分ける。

☆「どのようなとき」「どのような身ぶり」なのかを全体に押さえる。

◎見付けた身ぶりを発表し、交流する。

☆発表に合わせて、動作化させることで、発表の内容を理解できるようにする。

視点 2

まとめを全員で読むことでの確実な定着

視点 1

似た型の利用による学習内容の定着

視点 2

まとめを全員で読むことでの確実な定着

【読む】

文章の内容を読み取ることができる。(発言)

【関・意・態】

見付けた身ぶりを発表しようとしたり、書こうとしたりしている。(発言・ノート)

【話す・聞く】

話題に沿って自分の考えを話したり、最後まで聞いたりできる。(発言・態度)

視点 2

意識的な音声化

ま
と
め
9

身ぶりを使って、伝えよう！！

- ◎身ぶりを使った生き物クイズを作る。
☆クイズづくりのルールを確認し、必ず身ぶりを使うことを強調する。



カエルだったら、どうなるかな？

アザラシのクイズを作りたいな。どんな身ぶりにしたらいいかな？

- ◎どのような身ぶりを使えば、よく伝わるか考え、練習する。

大きさを表すのに身ぶりを使おう！

動物の動きを身ぶりで伝えたいけど、どんな風にするといいかな？

- ◎「生き物クイズ大会」を行う。
☆教師がモデルとなり、どのようにクイズを出したらよいか示す。
- ◎自分や友だちの身ぶりについて、よかったところや工夫していたところを話し合う。
振り返ったことをノートに書く。

ぼくは、動きがみんなに伝わるようにするために、手の動かし方を考えました。小さく動かすようにしました。



視点 3

学習内容に関係のある図書の配置

【関・意・態】

進んでクイズに参加しようとしている。(行動観察・発言)

視点 1

学習したことを活用した活動による学習事項の定着

【話す・聞く】

身ぶりを使って話したり、最後まで聞いたりすることができる。(行動観察・発言)

視点 2

小グループの活用による話す機会の保障

7 本時

(1) 本時の目標

身ぶりの特徴について読み取ることができる。(読むこと)

身ぶりについて進んで発表しようとする。(関心・意欲・態度)

(2) 本時の展開(10/23時間)

	児童の活動	【評価規準】と視点, 支援○
導 入	<p>前時までの活動</p> <p>身ぶりには、「特徴」があったよ。 今日もどんな特徴があるのか考えるよ!!</p> <p>身ぶりには どんな特徴があるか考えよう!</p>	<p>視点3 掲示物の活用 前時まで学習している2つの特徴を掲示し、どのように学習を進めてきたのかを振り返る。</p>
5	<p>・音読練習</p> <p>1 指なぞり読み 2 立ち読み 3 3人グループ読み</p>	<p>視点1 説明的文章の音読 多様な方法で繰り返し意欲的に音読できるようにする。</p>
展 開	<p>・気持ちを強く表す身ぶりについて読み取る。</p> <p>この絵は何をしているところかな?</p> <p>両手を上げてばんざいをしている。</p> <p>動作化をしながら、どんなときに使う身ぶりなのかを実感する。</p> <p>これは、両手を組んでいる身ぶりだ。</p> <p>困ったときにする身ぶりだよ!</p>	<p>視点1 類似した形式の利用 特徴1, 2の段落と同じような形になっていることに気付かせ、学習の見通しをもたせる。</p> <p>○挿絵にまず注目させ、何を表しているのか文章から見付けさせる。</p> <p>【関・意・態】 挿絵と身ぶりについて進んで発表しようとしているか。(挙手・発言) ○教科書の具体例から動作化を図る。</p>
30	<p>・「このように」という言葉に着目して、身ぶりの特徴をまとめる</p> <p>特徴 3 うれしい, たのしい, かなしい, こまったなどの気持ちは、身ぶりで表す方がよく伝わることもある。</p>	<p>視点2 言語化 挿絵のような身ぶりを自分たちも使ったことはないか話すことで、身ぶりの特徴を理解する。</p> <p>【読む】 文章の内容を読み取ることができたか。(発言)</p>
ま と め	<p>特徴 3 うれしい, たのしい, かなしい, こまったなどの気持ちは、身ぶりで表す方がよく伝わることもある。</p>	<p>視点2 言語化 まとめを全員で読んだり、書いたりすることで確実な定着を図る。</p>
10	<p>・ノートに身ぶりの特徴3を書く。</p> <p>・次時の学習について知る。</p>	

